



Photo by Andre Mouton on Unsplash

# 人間は特別で、特別でない

## 特殊と普遍をつなぐものとしての進化的視点の可能性

講師：平石 界 氏 (慶應義塾大学 文学部 准教授)

日時：2018年11月20日 (火) 13:30~16:40

会場：先端社会研究所セミナールーム (西宮上ヶ原キャンパス 社会学部棟3F)

※参加申し込みは不要です。当日直接会場にお越しください。

他の生物と比べたときに人間には特別な面がある。無間矢鱈と大きい脳を、直立した身体の上に掲げ、複雑怪奇に構成された無機物に身体を延長させる。しかも、この延長された身体(道具)は、ドーキンスの言う「延長された表現型」(extended phenotype)ではなく、かなりの程度が「文化的」に、獲得、継承、発達されてきたものである。それでは人間のこうした特殊性は、一体どこから来たのだろうか。直立二足歩行、大脳化、道具利用、文化といった特徴が獲得されてきた経緯を考えれば、そこには生物の世界に共通の原理、すなわち自然淘汰による進化を考えることができる。実際、進化は特殊なものを生み出す普遍的原理である。このことをまず確認する。その上で、人間社会の内部に見出される様々な「特殊」、社会集団間差や個人間差もまた、同様に普遍的な原理から理解できるのか、来場の皆さんと考えてみたい。

### 参考文献

平石 界. 2017. 性差研究とジェンダー差研究に共通する視点. 心理学評論, 60(1), 111-115.

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/sjpr/60/1/60\\_111/\\_article-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/sjpr/60/1/60_111/_article-char/ja/)

